

三陸の海を放射能から守る

岩手の会

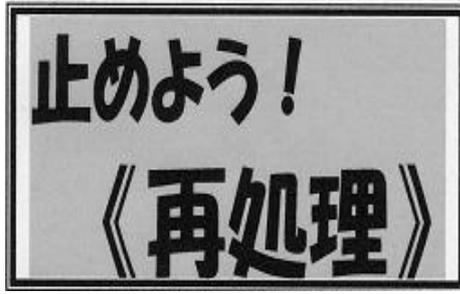
郵便振替 02240-5-102650

《岩手の環境 / R I 廃棄物 / 再処理》

http://homepage3.nifty.com/gatayann/env.htm

《まった再処理分庫》

http://briefcase.yahoo.co.jp/kimag



天恵の海を守ろう!

2008 (平成20)年

7月 29日

第57号

編集事務局 S.Oshida

TEL・FAX 019-623-1636

# 溜まった「高レベル廃液」は大丈夫か?

## 放射性廃液事故防止質問状



六ヶ所再処理工場 推定約210\*の高レベル廃液が保管されている

# 三陸沿岸五市民団体が 日本原燃へ要請行動

提出五市民団体

花とハーブの里(青森)  
Peace Land

豊かな三陸の海を守る会  
(岩手)

三陸の海を放射能から守  
る岩手の会(岩手)

三陸・宮城の海を放射能か  
ら守る仙台の会(宮城)

「高レベル廃液の環境放  
出事故防止に関わる質  
問状」の要旨

青森 岩手 宮城の五  
市民団体は、七月三一  
日、青森県六ヶ所村の日  
本原燃に出向き、「高レ  
ベル廃液の環境放出事  
故防止に関わる質問状」  
を提出します。  
質問状では、高レベル  
廃液が溜まってしまったの  
に、ガラス固化も出来な  
い」という深刻な事態に  
ついて、当事者の日本原  
燃が、どのような認識を  
持ち、どのように対処し  
ようとしているのかを質  
します。現状の正確な公  
開と、事故防止安全対  
策のための、具体的な方  
策など納得できる回答を  
必要とします。  
賛同団体を呼びかけて  
いますが、七月二七日現  
在、二〇団体が名を連ね  
ました。

私たちは環境への放射  
能放出について心を痛め  
ている。六月には「六ヶ  
所工場直下に活断層説」  
が学会で発表されたが、  
再処理工場を一旦休止し  
論議を尽くして操業の是非  
を判断すべきではない  
か。六ヶ所工場には大量  
の高レベル放射性廃液が  
保管されている。この危  
険な廃液が環境に漏れ出  
せば青森県民や近県住民  
は緊急避難を行わねばな  
らない事態もあり得る。  
チェルノブイリ原発事故  
では青森県の面積以上の  
広大な地域が、住民が二  
度と戻れない危険な地域  
となってしまった。この  
ような事態は絶対にあつ  
てはならない。  
六月一四日岩手宮城内

陸地震、七月二四日の岩  
手北部地震は想定外の場  
所に発生したという。六  
ヶ所工場直下地震が発生  
した場合、「絶対に放射能  
の環境放出はない」と確  
約出来るかを確認したい。  
主な質問事項

A 廃液放出事故対策

現在高レベル放射性廃  
液は何立方メートルあるのか  
廃液沸騰や水素爆発防止  
への電源確保などの対策

各種の高レベル廃液の  
貯蔵状況と対策 有機溶  
剤や油脂の火災爆発対策

B 直下型地震への対策  
マグニチュード8対策

はあるのか 火災、配  
管・プールなどの損傷、  
漏れ、建物のゆがみ対  
策、電源喪失、通信不  
能、遠隔操作不能への対  
策、

「地震対策マニユ  
アル」の内容 廃液の漏  
えい事故の評価例 ガラ  
ス固化技術確立までの燃  
料棒剪断中止

C 「直下活断層」問題へ  
の対応

変動地形学などの「新  
知見」について学者との  
対話の意志 「沿岸版チ  
ラシ」の「想定三陸沖地  
震」での安全確認の根拠

核災害についての「企  
業モラル」 活断層とわ  
かった場合の「閉鎖の方  
向」判断

# 六ヶ所再処理工場の現状

## ガラス固化工程の行き詰まりと地震対策



原子力資料情報室  
澤井正子氏

六月一六日、岩手教育会館で開催された「六ヶ所工場直下に活断層」説の渡辺満久教授の講演会において、原子力資料情報室の澤井正子さんは「六ヶ所再処理工場の現状」と題する関連講演を行いました。「ガラス溶融炉の写真」や「炉内温度グラフ」の資料映写を行い、固化技術の見通しも立たないまま、高レベル放射性廃液を溜め続けている六ヶ所工場は、地震に対して極めて危険な状況にあると訴えました。（まとも・尚）

＊講演記録は、岩手の会ホームページに掲載

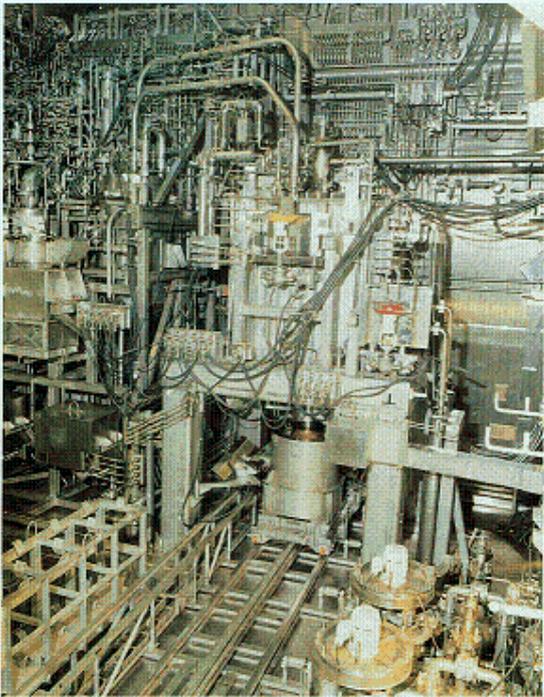


図8 ガラス溶融炉

【出典】動力炉・核燃料開発事業団 東海事業所パンフレット「ガラス固化技術開発施設」

高レベル放射性廃液は大変危険

「再処理工場」は使用済み核燃料を剪断、溶解しプルトニウムやウランを取り出す工場ですが、その後「高レベル放射性廃液」が残ります。これはいわゆる「死の灰」で大変危険なものです。放射能が強くなるそばに寄れず、高熱を発生し、強い放射線で水素が発生します。絶えず冷却し水素の

排気を行う必要があります。液体のままでは運ぶことも出来ず大変危険です。そこで、この廃液をガラスに混ぜて、固化し「安全」にしようとするのが「ガラス固



ガラス固化体

化工程」です。「ガラス固化体」は六ヶ所工場の場合、大きさが直径四〇センチ、高さ一三四センチのステンレスの容器に入れられます。放射性廃液とビーズ状のガラスを高温で溶かし混ぜ合わせて作ります。実はこの工程が大変難しく昨年一二月以来止まっています。

ガラス溶融炉は人の近づけない「セル」の中

高レベル放射性廃液のガラス固化炉は、体育館のようなとても大きな建物の中に二メートルもの厚さのコンクリートで仕切られた「セル」(小部屋)の中で行われます。もちろん遠隔操作です。セル内部の写真は公表されていませんが、私は、東海再処理工場が運転を始める前に裁判の検証でセル

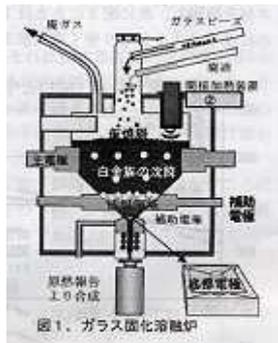


図1. ガラス固化溶融炉

内部へ入ったことがありません。たくさんのパイプやケーブルが複雑に交錯し「お化け」のような印象を受けました。(左上写真)六ヶ所工場は約三倍の規模となります。流下の出口は加熱・冷却で開閉する

ガラス溶融炉は、電気抵抗を利用した加熱方式で摂氏一〇〇〇〜一二〇〇度という半端じゃない高温にし、ガラスと廃液を混ぜます。混ぜたものは、左図のように炉の下部に、ステンレスのキャニスターを置いて、流下させ入れます。

この流下の開閉は「バルブ」などは使えません。高熱と放射線ですぐ壊れてしまします。炉の底のノズル部分を強制冷却してガラスを固めて「フン詰まり」にして止めます。開ける時は加熱します。

しかし白金族元素が沈殿温度が上がらない

これらが正確に、スムーズにやれるかを試しているのが「アクティブ試験」です。実は、死の灰にはいろいろな金属が溶けこんでいるのですが、プラチナなどの白金族の金属が溶けこんでおりこれが沈殿するとそこが電

気を通してしまい温度がうまく上がりません。大地震が来たらどうなる

再処理工場は配管や電線が張りめぐらされた地震に弱い施設です。高レベル廃液がたくさん溜まっていて、例えば「仮置き場」に置かれているガラス固化体がひっくり返るような地震が来たらどうするのでしょうか？作業中の地震の安全対策などは公表されていません。

六ヶ所工場は四苦八苦の状態ですが、こんな危険なものを止めて困る国民は先ずありません。地震が来ないうちに、稼働を休止して安全を図ってほしいものです。

### 六ヶ所再処理工場稼働休止を求める声明

岩手県保険医協会  
七月一三日岩手県保険医協会箱石勝見会長)は、六ヶ所再処理工場の稼働は、三陸海産物への影響、英仏処理場付近の小児白血病の増加、耐震性への懸念から、稼働の休止を求めるとい声明を発表しました。